



千柳亭

陸奥仙臺

錦織一葉

まらくこと  
 くらさるる  
 おもひなき  
 あつきの  
 はれとおち  
 めきといふ  
 再ちんきね漢  
 のね華  
 こころ  
 あつきの  
 ころころ  
 こころ  
 よら

山元	はるまき	のう	名	実	里	名	山	名	居
はるまき	のう	名	実	里	名	山	名	居	



出抄 點高判亭柳千

春山 春の山とて霞やうくかららるるまはりのついでに  
 海山麓 海のふち細くあつたつとあつたつ霞のうらみのこころの浦  
 春曉 春の朝のあけぬや鳥のさかぬまのあけぬまのあけぬま  
 朝三亭 朝の三つ亭のあけぬまのあけぬまのあけぬま  
 茅山人 茅の山人のあけぬまのあけぬまのあけぬま  
 夏月 夏月のあけぬまのあけぬまのあけぬま  
 夏風 夏の風のあけぬまのあけぬまのあけぬま  
 社殿秋 社殿の秋のあけぬまのあけぬまのあけぬま  
 船渡月 船渡の月のあけぬまのあけぬまのあけぬま  
 時雨 時雨のあけぬまのあけぬまのあけぬま

管中 関天 千柳亭

點 七、

えんじやく

十、 さくつわんか

十一、 白露貫珠

十二、 風梳新柳髪

十三、 大伴八景とてりしり

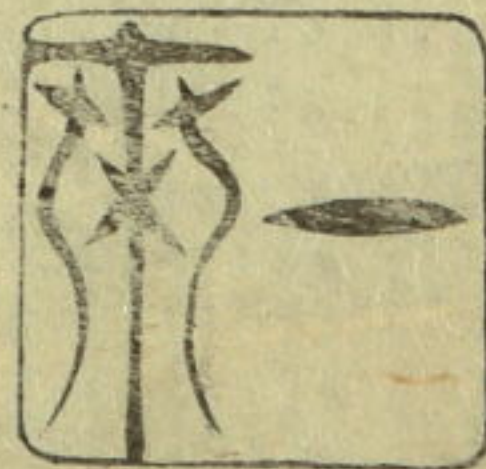
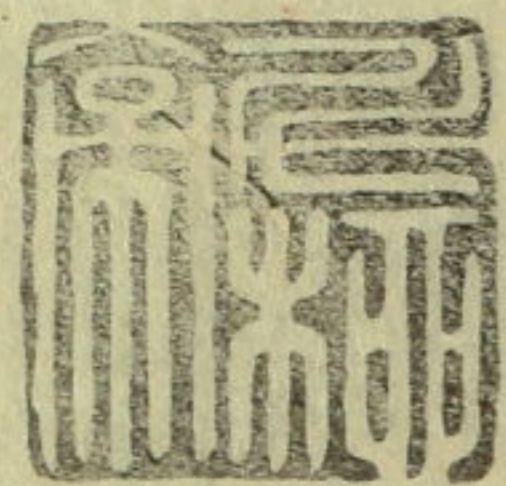
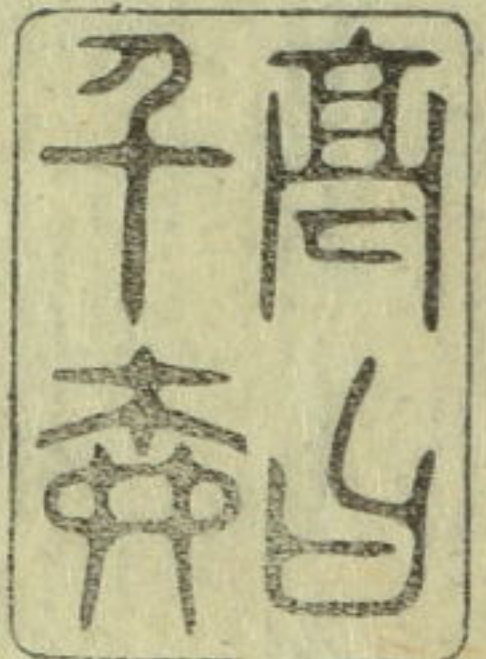
十四、 十景十五景とてりしり

初名

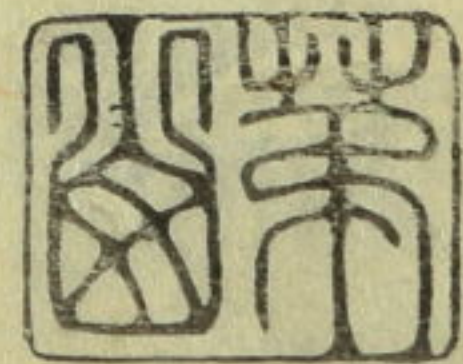
唐 丸

別号

雙星子  
 朝三亭  
 茅山人



王



子も 本舞子といふ所は其より舞子といふ所あるはらん <sup>ちり</sup> 江利  
 名 堤内名の事の小とていふは其の事なるは <sup>江利</sup> 元有  
 海田を 地立梅の事と云ふは種をみるは <sup>心</sup> 江利  
 彼は是 此の事ありの事なるは其の事なるは <sup>心</sup> 湯更  
 意 君も此の事なるは其の事なるは <sup>心</sup> 千條  
 竹を 今この事なるは其の事なるは <sup>熱田</sup> 江利  
 旅 旅なるは其の事なるは其の事なるは <sup>心</sup> 双樹  
 杉 杉の事なるは其の事なるは其の事なるは <sup>心</sup> 海城  
 樂器 笛を以てての事なるは其の事なるは <sup>心</sup> 石門  
 船夫 舟を以てての事なるは其の事なるは <sup>心</sup> 梅田

緑樹園

常陸信太郡江崎住居 旅病小網町錦鳳堂

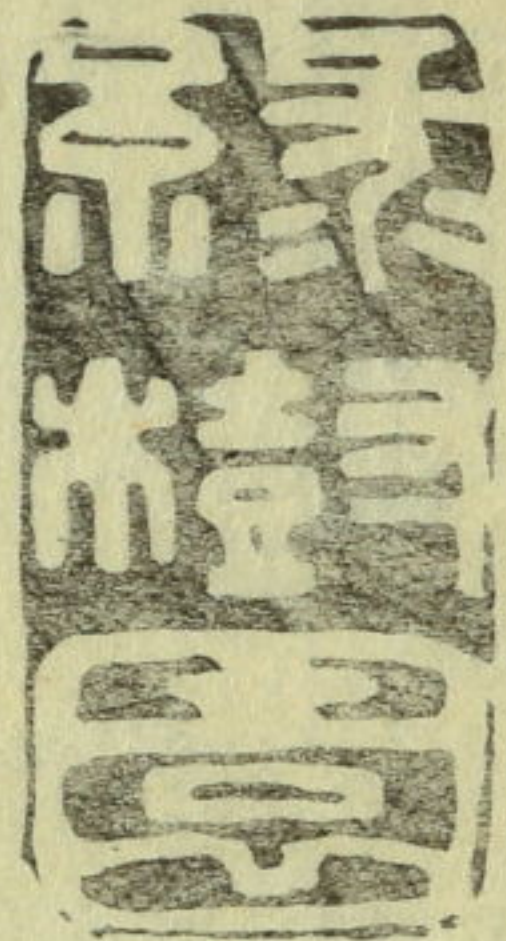
高元有

故古樹園の  
 趣不もあ  
 遠の事  
 趣の事と  
 とくく  
 酒なるは  
 船に  
 船なる

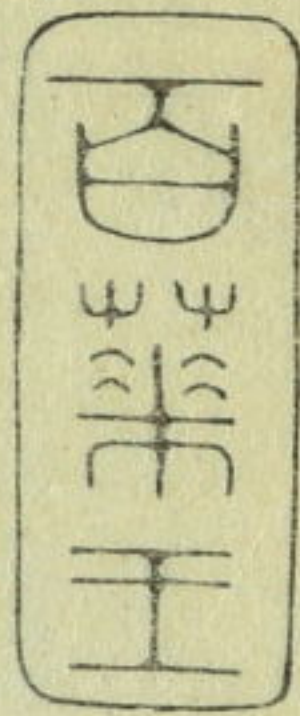
之を以てて <sup>心</sup> 舟を以てて <sup>心</sup> 舟を以てて <sup>心</sup> 舟を以てて  
 故古樹園の <sup>心</sup> 故古樹園の <sup>心</sup> 故古樹園の <sup>心</sup> 故古樹園の  
 趣不もあ <sup>心</sup> 趣不もあ <sup>心</sup> 趣不もあ <sup>心</sup> 趣不もあ  
 遠の事 <sup>心</sup> 遠の事 <sup>心</sup> 遠の事 <sup>心</sup> 遠の事  
 趣の事と <sup>心</sup> 趣の事と <sup>心</sup> 趣の事と <sup>心</sup> 趣の事と  
 とくく <sup>心</sup> とくく <sup>心</sup> とくく <sup>心</sup> とくく  
 酒なるは <sup>心</sup> 酒なるは <sup>心</sup> 酒なるは <sup>心</sup> 酒なるは  
 船に <sup>心</sup> 船に <sup>心</sup> 船に <sup>心</sup> 船に  
 船なる <sup>心</sup> 船なる <sup>心</sup> 船なる <sup>心</sup> 船なる

緑樹園

以芳野山櫻木刻之



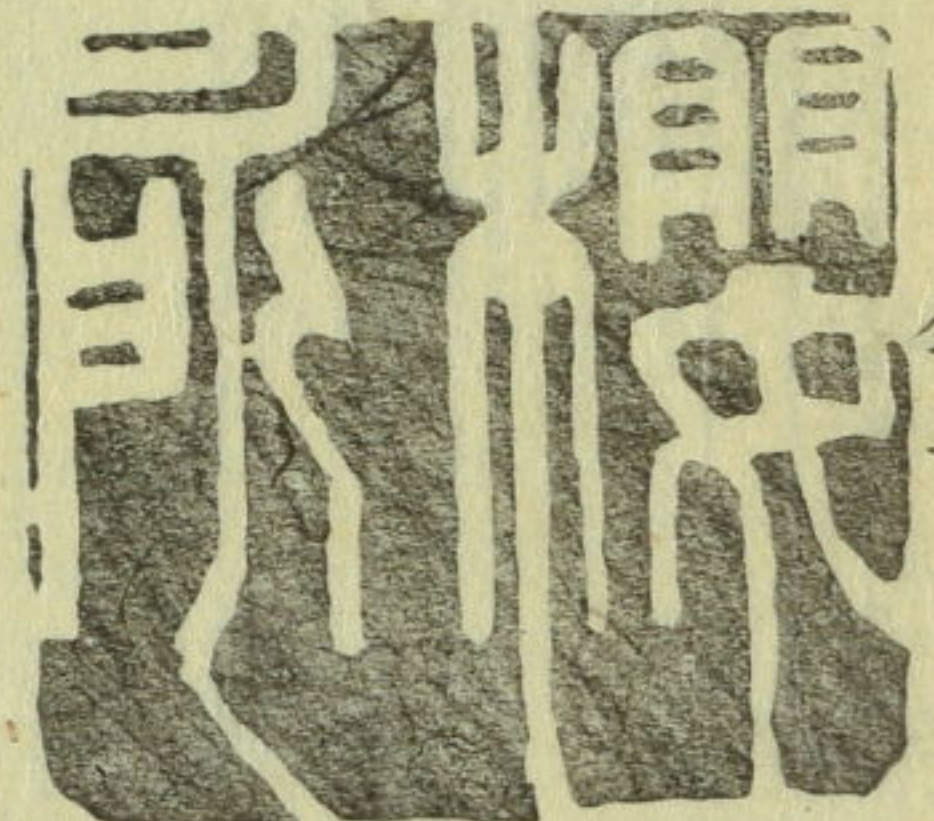
百花王



高山人



櫻可全上



櫻所



元有隣卿

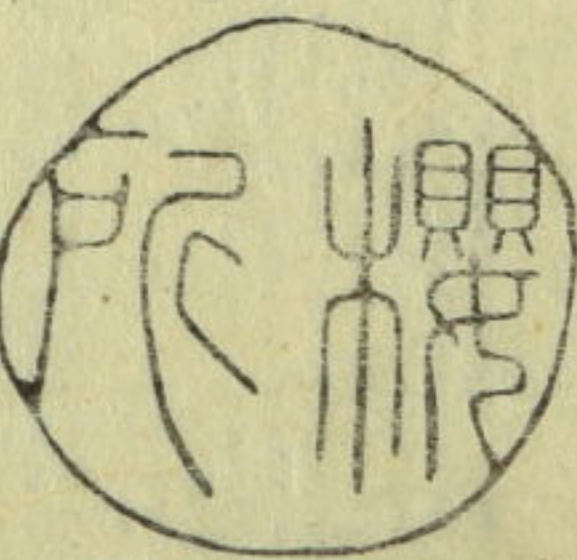


林元



櫻可仙臺實竹

仙臺實竹



杜惚



櫻可



柳又よみみ花と紅

緑樹園

緑樹園判高點抄出

初夏	百人ものわらわら花入りよみみ花のふりのを何ゆえ	跡成
常	雪の舟のまきまのころをいりよみみ花のふり	志園
柳	百やまと二百里まの風俗のうらぬ葉いまのまらね	古版
二日彦	若返りて春ふはらるる二百名権作もろくはひをこころ	長人
桜	ふゆの桜の枝をばえ人のこころをまけてやうい	林元
若返り	若返りて春ふはらるる二百名権作もろくはひをこころ	阪上
卯花	まらぬ花のあはれ申庸のふらふらよきこころの卯花	卯女
若こ	まらぬ花のあはれ申庸のふらふらよきこころの卯花	弟成
あはれ	まらぬ花のあはれ申庸のふらふらよきこころの卯花	若浪
花	まらぬ花のあはれ申庸のふらふらよきこころの卯花	花垣

板巻火

ふ海をさつはまふくしりの根のうきうきとあつた火

阪巻

三秋風

秋風をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

三秋

初秋風

初秋の秋風をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

初秋

名取月

名取の月をみながらうらうらとあつた秋のまつ風

二葉

十九夜

十九夜の月をみながらうらうらとあつた秋のまつ風

十九夜

携衣

携衣の衣をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

携衣

名

名をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

名

山雲

山雲の雲をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

山雲

富士山

富士山の山をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

富士山

玉兔園

皇都

桂

澄

磨

梅

梅をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

花

花をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

鴨

鴨をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

水鷗

水鷗をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

月

月をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

名

名をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

名

名をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

名

名をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

名

名をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

名

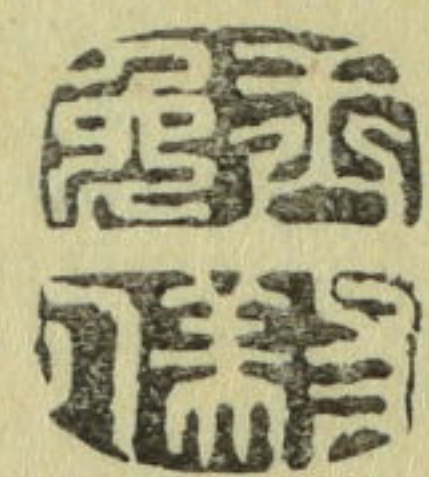
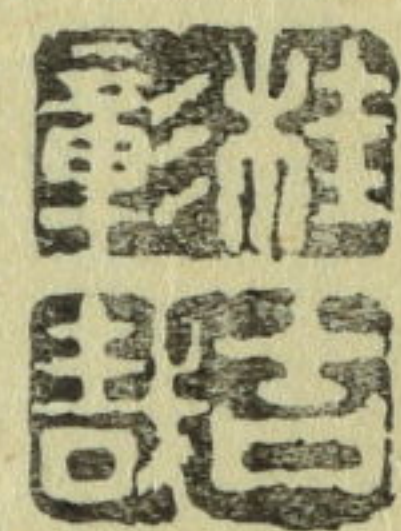
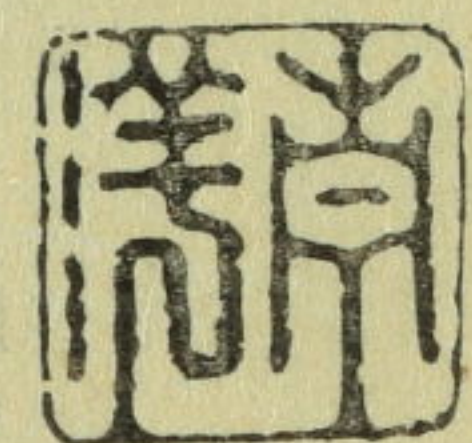
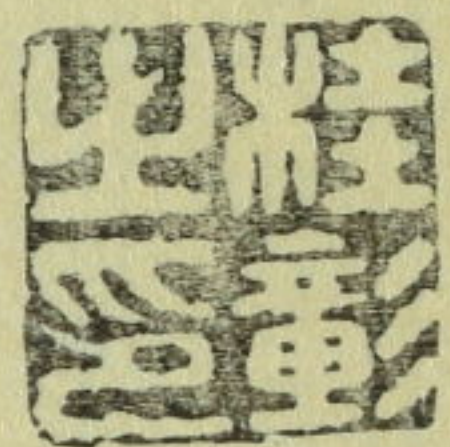
名をききながらうらうらとあつた秋のまつ風

澄磨小傳並略系

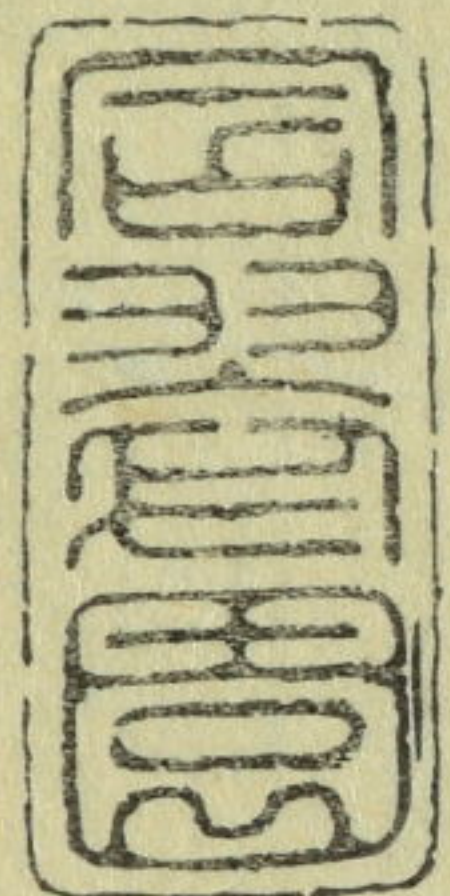
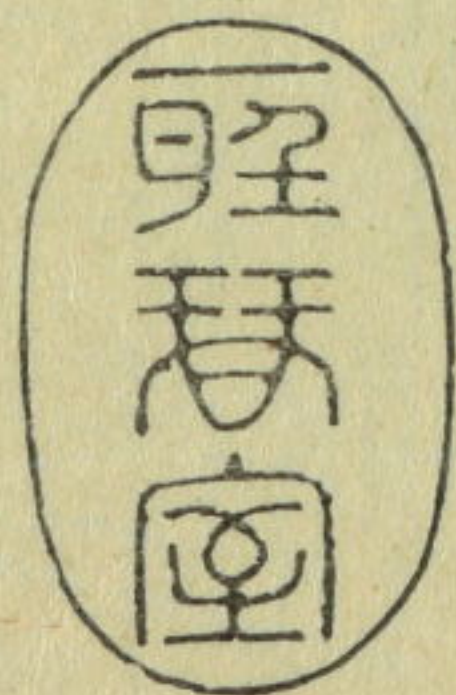
姓藤原名有彰字吉哉通稱桂藤左衛門  
號玉兔園別號聽琴室含翠園推敲堂青  
洋文化丁丑年僑居浪華遊古三日坊雛  
磨門詠在歌後入東都水魚連奔玉雲流  
古調慕大江都今樣又學和歌城戶千楯  
翁學画岸越前从京城人

貞柳——國磨——產磨——男雛磨——門人澄磨

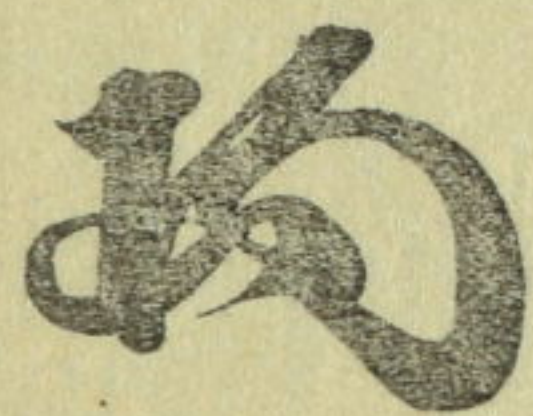
印



章



花押



陽之字

出抄點高判園兔玉

威旦	世のあはれ	夏月	初秋の	廉	月	初冬	附西
こころいふるまのつら	世のあはれ	こころいふるまのつら	こころいふるまのつら	こころいふるまのつら	こころいふるまのつら	こころいふるまのつら	こころいふるまのつら
たふさぬれ	千條	恒世	み徳	子深	梅河	足彦	武持

下六

五十瀬屋

伊勢津萬町  
三村氏

日賀琴津々丸

文章書畫  
その余伎藝  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

春	夏	秋	冬	月	水	毛
あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ



十五願屋判高點出

三春 浪連... 梅 春月 夫其 元 卯夏 卯冬 卯春 卯秋  
 梅 春月 夫其 元 卯夏 卯冬 卯春 卯秋  
 卯夏 卯冬 卯春 卯秋  
 卯春 卯秋  
 卯秋

六

下

盲人石之挽 神風舎

伊勢廻家 馬声齋 五十願廻屋 柳窓 春門一号糸信  
 森田亭 伊勢津神風舎 春門印 森田亭 森字 五十  
 津々丸 玉垣内津々丸 五十



一農屋判高點抄出

印章  
主点朱

玄象

十、朱

牧馬

八、朱

雲和

五、朱  
琵琶

三、青  
よりのを

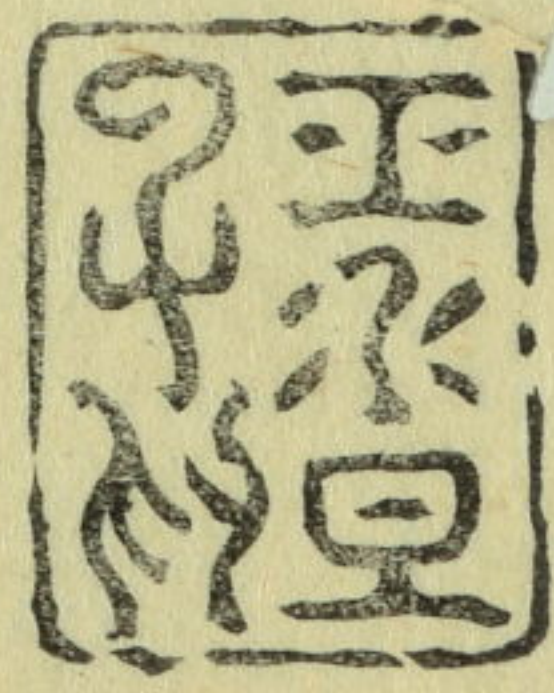
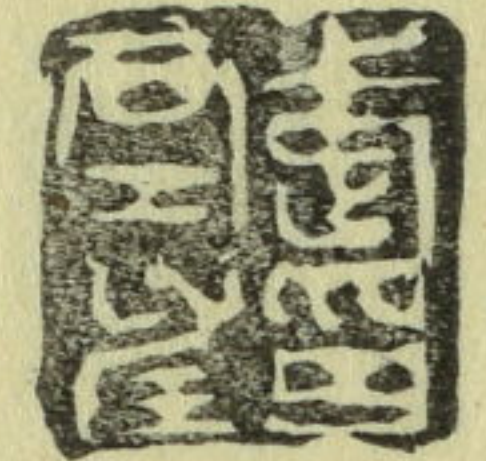
一、青  
ちく

別號

平且子  
剋々園

褒義

まろえり  
青



甘盧乃葉廼笛爾合須判入江耳

主面留蟹乃都万琴

五

梅

きんぎょの梅はあはれとておまきて何とていふらん梅のそつふ

きんぎょの梅はあはれとておまきて何とていふらん梅のそつふ

春抄

りあのむとけりいあのみ後のもをさるるらん

春月

あまの月あまの月あまの月あまの月あまの月

花

花あまの月あまの月あまの月あまの月あまの月

山吹

花あまの月あまの月あまの月あまの月あまの月

後

花あまの月あまの月あまの月あまの月あまの月

郭公

花あまの月あまの月あまの月あまの月あまの月

郭公

花あまの月あまの月あまの月あまの月あまの月

橘

ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

橘

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

花

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

花

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

花

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

葉

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

秋

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

秋

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

雑

あまのこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光 乙好

長忍亭

音羽五丁目 小山氏

瀧口基頼

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

若水 ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

ちののこころのきつこころい依佐の軒もむらたき光

十五矣朱

點式

雲廼葉彌志

十矣朱

寝詞

闇夜磔

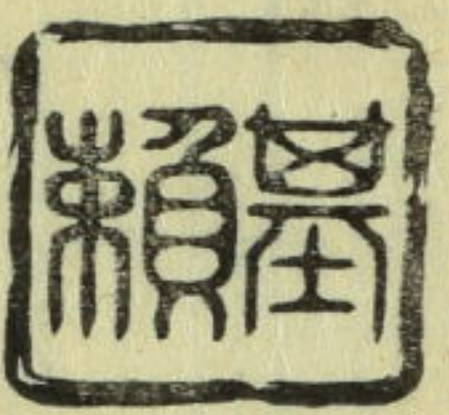
畢句



難波津


七矣青

筑紫浮



押

如

加矣 

別号 白梅園

宜居謙而樂歌游誠  
雅交益庶 長忍亭

長忍亭判高點抄出

子春	つねのきつりのみくまのつらのくはりのすえのいむむくう	虫飛
著	まことのみひをあらわす言のけつらりしむねをい	清海
梅葉表	はくばのすのききこもてりしむねのたのしみをのむ	飛丸
梅葉底	はくばのすのききこもてりしむねのたのしみをのむ	松人
竹花	たけのきはるをあらわす言のけつらりしむねをい	梳子
山崎	のりたまのききこもてりしむねのたのしみをのむ	無敵
夫名	あつたをあらわす言のけつらりしむねをい	忠新
父名	あつたをあらわす言のけつらりしむねをい	善成
		又書

多衣 夢とありもたぬらんからぬ花のまゝはるの夢に花を 福友

いづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 菊成

水音 月影のこころいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 小庭

花音 花はさへあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 花音

團扇音 扇の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 団扇

心音 心の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 心音

音 音の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 音

舟人 舟の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 舟人

牛 牛の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん 牛

え服 え服の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん え服

桑廼門

下總古河

次嘯堂静香白

音 音の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

梅 梅の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

槐 槐の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

夏草 夏草の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

蓮 蓮の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

音 音の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

浦月 浦月の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

山紅葉 山紅葉の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

松 松の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

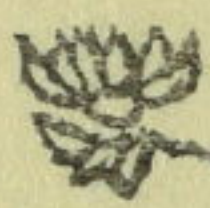


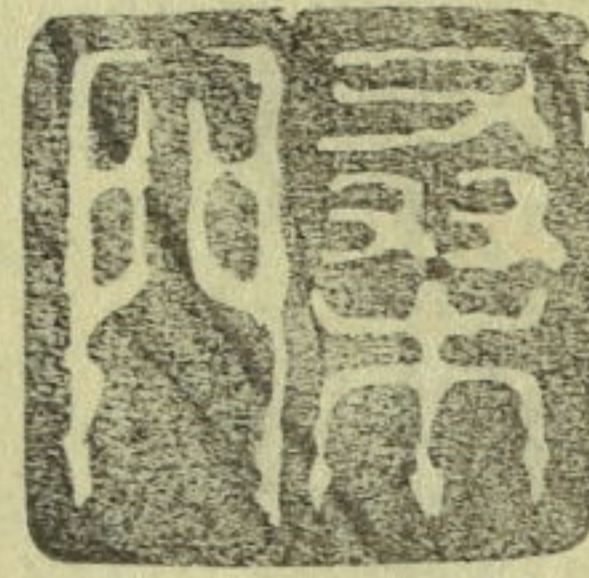
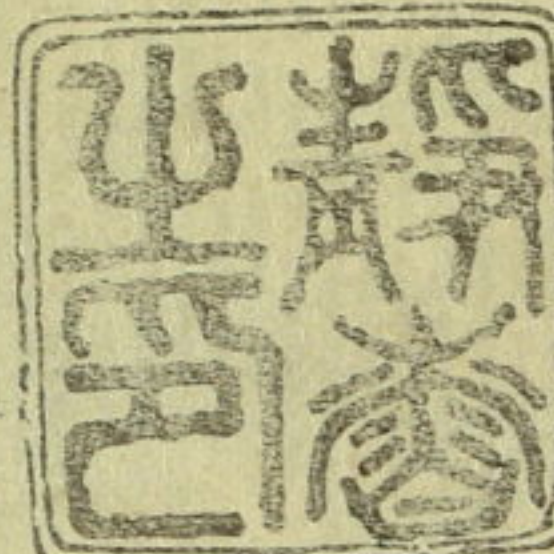


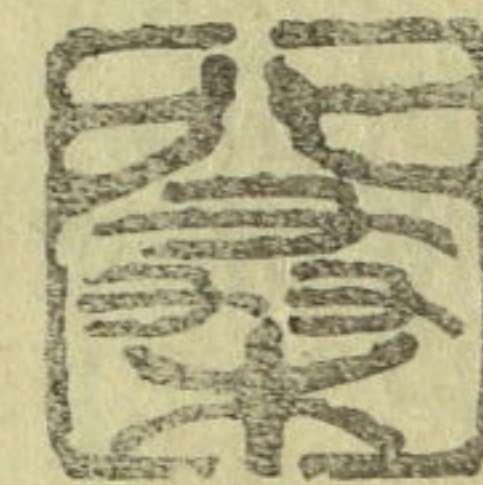

秋夜 秋夜の音もあはれぬらんいづれはあはれぬらんいづれはあはれぬらん

出抄點高判門廻来

思文  
 一人  
 文好  
 海鳥  
 一人  
 鬼親  
 子條  
 一葉  
 度成  
 以是

心猿遊緇林

来門靜香

加五	十五	十五	七点
			閑居琴
	四海波	春夜雨	閑居琴
花押			
			
	江頭未 知死處		

月 めるまり弟の勢よりおとしの月の後のさむくもあけハ 玉燈	紅き後水 舞のまむしあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	おしを ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	雄拂 多あめのおれぬおしをさむくもあけハ 玉燈	除夜 おしをさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	意 さむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	待意 灯とらん小橋のまつたおしをさむくもあけハ 玉燈	意 おしをさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	局 れうしおれぬちかおしをさむくもあけハ 玉燈	松 ちかおしをさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈
玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈

眞幸園

下谷 和泉橋通

源魚臣

子春 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	春更 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	由申竹指 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	海田倉 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	月 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	藤新 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	物や財由 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	香 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈	社政標 ちのさむくもあつたの勢よりさむくもあけハ 玉燈
玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈	玉燈

和泉橋通

源魚臣



真幸園判高點抄出

鬚式

七点 銀刀

十点 錦鱗

十五点 玉尺

右朱筆

別號

樂水漁隱

戲藻陳人

椿廼屋



翻藻擲銀校 真幸園

三春

五春

等

豐元

春元

川田

富貴

六月

蓮

秋夕

まふささりつろろあんな天竺をぬり 伝をてきとめつ

極意をききまじんはくくよそらわくはまききさく

花をよめいふは 舞後の 事とらくくぬあはき

枝とらわりのひさの 雲とらくくはくくはくくはく

弱あつて人のまをるまをわくわくはくくはくくはく

川田やまきのひさとらくくはくくはくくはくくはく

うらやまのひさとらくくはくくはくくはくくはく

六月のふ軒端をぬりぬはくくはくくはくくはく

あつたつら傳やまのひさとらくくはくくはくくはく

秋夕のひさとらくくはくくはくくはくくはくくはく

光枝

五軒

安久

栄吉

五軒

雙樹

河音

系長

廣好

素雅

真幸園判高點抄出

六

一

月

月夕ハ燈の光り多きを飾き秋のうきうき

清海

日暮の暮の光り多きを飾き秋のうきうき

思又

暮

暮の光り多きを飾き秋のうきうき

思又

本枝

本枝の光り多きを飾き秋のうきうき

清海

空

空の光り多きを飾き秋のうきうき

古樹

年

年の光り多きを飾き秋のうきうき

子孫

山

山の光り多きを飾き秋のうきうき

子孫

石

石の光り多きを飾き秋のうきうき

雙樹

松

松の光り多きを飾き秋のうきうき

後進

松の光り多きを飾き秋のうきうき

後進

玉の屋

神田新橋

吉川清海

梅

梅の光り多きを飾き秋のうきうき

花

花の光り多きを飾き秋のうきうき

葉

葉の光り多きを飾き秋のうきうき

曙

曙の光り多きを飾き秋のうきうき

日

日の光り多きを飾き秋のうきうき

月

月の光り多きを飾き秋のうきうき

星

星の光り多きを飾き秋のうきうき

雲

雲の光り多きを飾き秋のうきうき

風

風の光り多きを飾き秋のうきうき

雨

雨の光り多きを飾き秋のうきうき

おつゝ  
武蔵屋の  
おつゝ  
おつゝ  
おつゝ

六

一

玉の屋判高點抄出

梅	梅の葉は梅の花より先に咲く	梅の葉
柳	柳の葉は柳の花より後に咲く	柳の葉
花	花は葉より先に咲く	花
新芽	新芽は葉より先に咲く	新芽
葉	葉は花より後に咲く	葉
花	花は葉より先に咲く	花
葉	葉は花より後に咲く	葉
花	花は葉より先に咲く	花
葉	葉は花より後に咲く	葉
花	花は葉より先に咲く	花
葉	葉は花より後に咲く	葉

玉の屋判高點抄出

いにしへの海

玉屋

清海

清海

七点

~~~~~

十点

~~~~~

十三点

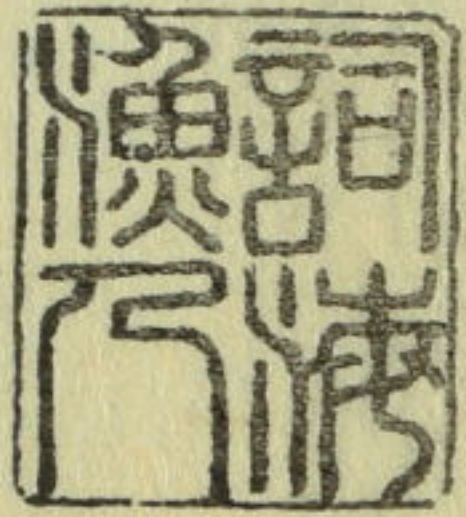
~~~~~

十五点

~~~~~

別号

詞海漁人



月 鏡 つきのかがみ  
 身 籠 みかご  
 夢 路 ゆじ  
 夕 川 ゆがわ  
 海 うみ  
 井 い  
 旅 たび  
 花 女 はなめ

おのづから 月鏡 つきのかがみ  
あふく 身籠 みかご  
あふく 夢路 ゆじ  
あふく 夕川 ゆがわ  
あふく 海 うみ  
あふく 井 い  
あふく 旅 たび  
あふく 花女 はなめ

松竹園 神田明神下 梅花笠

大 伴 武 隈 の  
 心 を 用 へ  
 よ 祈

初 春 はつはる  
 梅 子 うめこ  
 夏 月 なつづき  
 梅 花 うめばな  
 梅 笠 うめがさ  
 梅 子 うめこ  
 梅 花 うめばな  
 梅 笠 うめがさ

あふく 初春 はつはる  
あふく 梅子 うめこ  
あふく 夏月 なつづき  
あふく 梅花 うめばな  
あふく 梅笠 うめがさ  
あふく 梅子 うめこ  
あふく 梅花 うめばな  
あふく 梅笠 うめがさ

松竹園判高點抄出

愚式

七点 兎絲

十一点 翠袖佳人

十五点 薰徹素羅衣

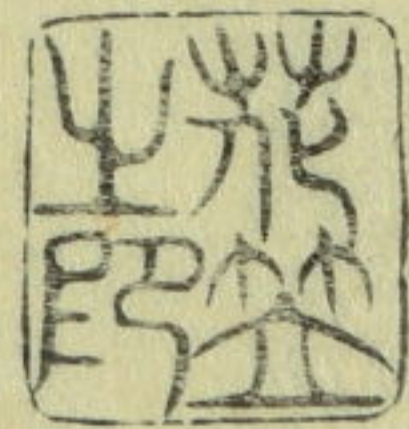
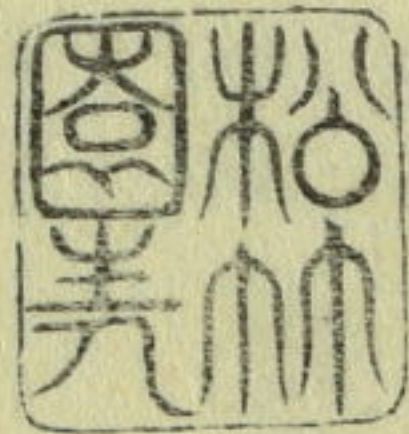
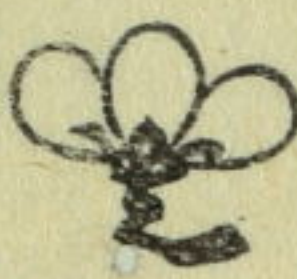
十六点 夢あそび 影の存ふ  
あまの

別號

三友亭

三愛居

花押



曉寒顧影  
惜金衣

梅花笠

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 音作

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 好子

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

井

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 深窓

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

子

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

梅

あまの梅のさかばねふと雪をうけまへりきこるのあはれ 梅更

少	依はの海も揚と海はつらつらゆめい〜ゆめい	後久
是宿梅	春のあけのきりかしの〜ゆめいゆめいゆめいゆめい	光永
子梅	うらやまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	信記
梅	あまのちひゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	清海
家法意	いつくよまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	之橋
園	人のこゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	徳長
川	とまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	君樹
花女	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	惣勝
胤	浦のあけゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	二宮
若令	むすゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	信武

至清堂

谷中芋坂 守川捨魚

停	春のあけゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	若春山
都	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	若
ゆめい	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	文
ゆめい	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	秋
ゆめい	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	葉
ゆめい	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	雲
ゆめい	あまゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめいゆめい	鳥

至清堂判高點抄出

早春	多からむて海ふいあひこめりうけりしもの重	雅旌
雨丁	極まらぬのこもれ極まらぬのこもれ	諸持
紙	何しむきたの糸の針ふとまの糸にらぬまてり	未佛
子歌	こゝろあはれうららの物敷のし敷あはれ	弟吉
葛蒲	踏みてぬるぬ片はらへんこもれはあはれ	和持
時音	こゝろあはれうららの物敷のし敷あはれ	系長
夏月	海あはれいひんあはれいひんあはれいひん	雙樹
掌花	あはれあはれいひんあはれいひんあはれいひん	春村
宮	あはれあはれいひんあはれいひんあはれいひん	守令
月	あはれあはれいひんあはれいひんあはれいひん	玉旌

ふらふらにるる海ふふふくき  
 こゝろあはれあはれあはれあはれ  
 こゝろあはれあはれあはれあはれ



関防肉印等ハはくふ  
 きのふもふみふも用ひ  
 こゝろあはれあはれあはれあはれ  
 作りあはれあはれあはれあはれ  
 かしらうこのあはれあはれ  
 こゝろあはれあはれあはれあはれ

莫譜 雅とちりひん  
 いしめててて 十五矣  
 いしめててて 十三矣  
 めてててて 十矣  
 おうててて 八矣  
 海ふの糸ふ  
 雅見ふ胞時

元押

雅旌

玉旌

稿葉 あつて今も夢の如く稿葉の如くは後の世に おき 馬  
 水音 せうしゆの田舎の音とせうしゆの音と 楊井 何音  
 音 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 炭竈 まつたの煙の音とせうしゆの音と おき 何音  
 竹音 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 志保 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 山 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 関 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 井底 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 菊 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音

武隈菴

下谷忍川 中島雙樹

卑俗の体を  
 こゝろてを  
 せんを  
 月之  
 おつての  
 せんをの  
 我揚 おき  
 せんをの  
 せんをの

下谷 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 忍川 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 中島 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 雙樹 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音  
 竹 せうしゆの音とせうしゆの音と おき 何音





時雨

降る雨はあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

来佛

きりぎりす

春のきりぎりすはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

龍文

寒枝

寒枝のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

星影

面影

面影のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

保庇

生草

生草のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

長根

古き

古きのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

後枝

孔吹

孔吹のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

結海

夢主人

夢主人のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

夢主人

梅

梅のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

未長

解結

解結のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

石門

落葉菴

神田 材木河岸

小池清武

あま

あまのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

心

心のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

折

折のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

ゆ

ゆのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

は

はのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

あ

あはのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

ま

まのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

ま

まのささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

水

水のささげはあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

水はあつちの鳥の鳴く声の如くはあつちの雨の如くはあつちの

新

下七五

落葉菴判高點抄出

點式

七貞

木葉散

十貞

宿者聞分

十五貞

古等俗奈吉

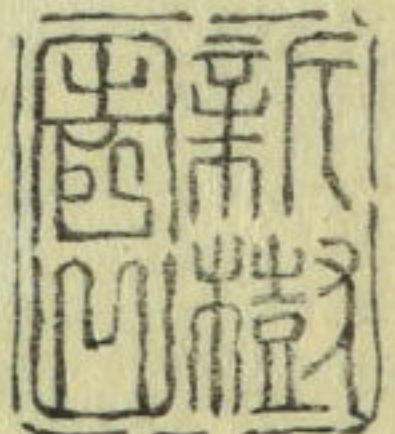
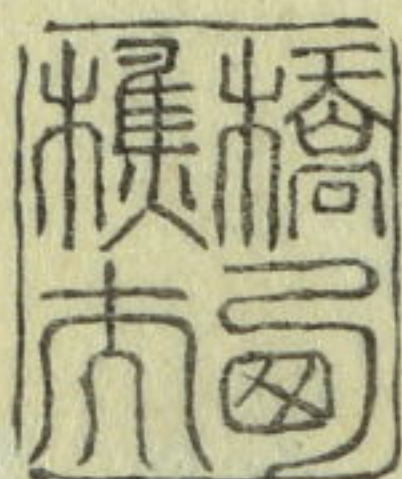
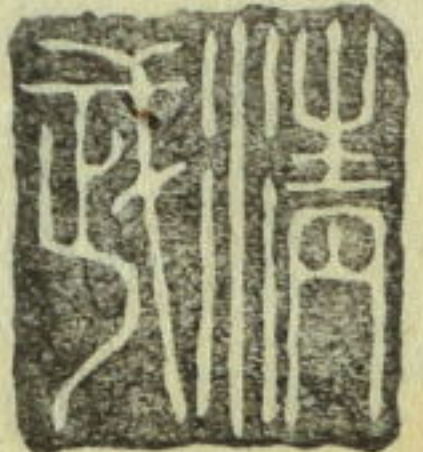
加點



別號

新樹園

橋西樵夫



Handwritten text in cursive style, likely a poem or commentary related to the 'Falling Leaves' theme.

書和

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

東車

書

松の葉をててててててててててててててててててててててててててて

魚尾

お梅

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

お董

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

お梅

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

お梅

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

お梅

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

お梅

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

お梅

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

川網線

まじりての布目爲の紙六もものへ紙のて紙書初

糸古

初秋月	かきつゆいひも秋のあけのやに秋のしづけのそよ風	川道
秋月	ちかき秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	二重
暮月	遅き秋のよもあけの毒も秋のあけのそよ風	玉成
暮の音	ふさふさの秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	後所
ささき	ささきの秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	清沈
葉喧	ささきの秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	變折
秋打	ささきの秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	言板
熊手宿	まらぬ秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	梅成
お懐田	ひさし秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	紅盤
祝	さかき秋のよもあけのしづけのあけのそよ風	控負

花源樓

本郷春林街

横田菊成

花	うたかたの秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
心	月影の秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
草	根の秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
日	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
草指	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
指の音	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
出の夫人	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
る士	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
月	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風
松	秋のよもあけのしづけのあけのそよ風

あきまつ  
あきまつ  
あきまつ  
あきまつ  
あきまつ

花源樓判高點抄出

一、水神のいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 二、梅のつらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 三、まゆのつらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 四、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 五、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 六、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 七、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 八、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 九、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 十、つらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう

子根本皮是衣今  
 子歩菜園と住花

樂只堂

點式

其波とよみすぬ浦相  
 其たつらむあうのいづれに花のたもとにこのものをつらむあう  
 其、老者の影やう  
 十、下巻年  
 八、衣とよみすぬ浦相

冥防

善のつらむあう

外萍

菊成

赤子橋畔居

椿山人

花押





栗花園判高黙抄出

栗花

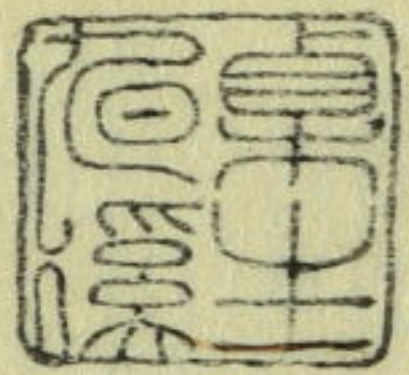
下丹九

點式

印章ヲ不用傍ニ  
數字ヲ朱書寸

別号

弄花人



花押



保多の秋をよぶ歌も  
忘の秋をよぶ歌も  
無州をよぶ歌も  
可難

梅

まつばらに母を逢ふ梅の枝をよぶの歌あり母を逢ふ

信長 子孫

梅

さくらんぼのよき梅の枝をよぶの歌あり志望の浦人

大坂 信海

ちりやちりや新羅の梅七はあふれりてりてり

大坂 教雄

あけのぼる梅の枝をよぶの歌あり梅の枝をよぶ

大坂 稻城

さくらんぼのよき梅の枝をよぶの歌あり梅の枝をよぶ

廣好

あけのぼる梅の枝をよぶの歌あり梅の枝をよぶ

忠貞

さくらんぼのよき梅の枝をよぶの歌あり梅の枝をよぶ

言教

さくらんぼのよき梅の枝をよぶの歌あり梅の枝をよぶ

大坂 教雄

さくらんぼのよき梅の枝をよぶの歌あり梅の枝をよぶ

大坂 教雄





うゝしとんこをい  
めえたしとんこ  
いせれたは



五

しゝり下いんせとくそあめりき

こやぢごんぢ中一のこごんごんごんごん  
中けこやぢごんごんごんごんごんごん  
りごんごんごんごんごんごんごんごん  
ごんごんごんごんごんごんごんごん

かたおろし

芍薬亭撰高點抄出

梅薫凡 ちうしき梅のねとくごんごんごんごんごんごん 百枝

紅霞梅 梅のよせのこごんごんごんごんごんごん 思文

章其元 仲の所梅のちうしき梅のねとくごんごんごんごん 枝真

標 ちのけ首梅のねとくごんごんごんごんごん 双折

春枝 今もれたるしんごんごんごんごんごんごん 菊成

春枝 今もれたるしんごんごんごんごんごんごん 一葉

春枝 今もれたるしんごんごんごんごんごんごん 正面

章其元 仲の所梅のちうしき梅のねとくごんごんごんごん 兼古

章其元 仲の所梅のちうしき梅のねとくごんごんごんごん 兼古

章其元 仲の所梅のちうしき梅のねとくごんごんごんごん 兼古

ケイ

下二

芍藥亭藏板目錄

芍藥亭狂歌集

二冊 彩色画入

同 狂文集

一冊 同

同撰紅絲狂歌合

一冊 同判詞入

同撰花街百首

二冊 同

同撰名取百首

一冊 同

同撰新葉狂歌集

二冊

狂歌新論

一冊

揚子

揚子の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

後武

三陽

三陽の園に上りておもしろくも花のまはりにあはれやうら

三橋

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

崔子

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

梅明

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

光丸

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

基教

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

一

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

伝長

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

新着

三

三の舟に上りておもしろくも楫のまはりにあはれやうら

井成

